



地震に備える

問い合わせ▼防災室



柏崎市の避難所となっている体育館 多くの人が避難生活を送っていました



地震発生後の柏崎市内 住居の1階部分が崩壊しています

新潟県中越沖地震発生、柏崎市の避難所では、

7月16日午前10時13分、新潟県上中越沖を震源とするマグニチュード6.8の地震が発生しました。一番被害の大きかった新潟県柏崎市では、震度6強を記録。安城市は、職員を現地に派遣し、災害状況の調査に努めました。

今回、建物被害で特徴的なことは、全壊・半壊建物のほとんどが老朽家屋であったことです。また、建物にそれほどの被害のない家屋でも、家具の転倒や窓ガラスの破損が多く見られました。このため、今年3月に起きた能登半島地震や、平成16年の新潟県中越地震同様、1万人余の避難者が出ています。

小中学校の体育館には、避難所が設置されました。避難者は、ゴザや毛布を床に敷き、避難生活を送っています。扇風機や除湿機などが配備され、最低限の生活環境は整っているという印象でした。しかし、お年寄りからは「1週間もこの状態が続いている。背中が痛くてつらい」との発言があり、別の避難者からは「2日目くらいまでは、気が張っているからもったけれど、災害に身体がなじんでくると精神的な疲労が強くなってくる」との声も聞かれました。

避難所内の壁面には、情報掲示板があり、情報伝達に威力を発揮しています。この掲示板は地震後、4、5日後に設置され、さまざまな情報が網羅されています。中には外国人向けの情報も掲示されていました。トイレについては、避難所(体育館)併設のトイレを、初期段階で使用禁止にし、パッケージ型の簡易トイレに切り替えていました。これにより、水道復旧時に、清潔な状態を保ったまま利用することができたということです。

柏崎市の避難所対応は、万全ではありませんでしたが、住民と連携し、力を合わせたことで、安全確保、環境整備が進んだことは間違いないと思います。この事例を踏まえ、安城市では、少しでも快適な避難生活ができるよう、研究していきたいと考えています。

総合防災訓練を行います

今回の総合防災訓練では、地震発生直後の災害対応活動や医療救護活動に重点を置いた、できるかぎり現実に近い内容の訓練を実施します。また、避難所周辺の自主防災組織の協力で、避難所設営訓練を実施します。この中で、避難所の問題点を洗い出したいと考えています。

●とき 10月20日(土)午後1時～4時

●ところ 昭林公民館を中心とした周辺地域(中央図書館、昭林公民館が休館になります)

●その他 大雨、洪水、暴風警報、東海地震の観測情報・注意情報・予知情報警戒宣言のいずれかが発表された場合や、市内に震度4以上の地震が発生した場合は中止します。

安城市で地震が起これば

左表は、東海・東南海地震が連動して起こった場合に予想される安城市の被害と、今回の柏崎市の被害状況を比較したものです。

	柏崎市被害状況	安城市被害想定
人的被害(人)	(人口: 柏崎市 9万3796・安城市 17万7096)	
死者	10	41
重軽傷者	1339	2071(軽症含まず)
住宅被害(棟)	(世帯数: 柏崎 3万3841・安城 6万4969)	
全壊	908	2302
大規模半壊	159	
半壊	1026	7723
一部損壊	13551	

※新潟県災害対策本部発表(8月1日)、安城市地域防災計画から。人口・世帯数は、柏崎市6月現在、安城市8月現在。

地震が来るその前に…
耐震診断を実施しています
専門家による無料の耐震診断です。



●対象 昭和56年5月31日以前に着工された旧建築基準の木造住宅
●申し込み 建築課へ
●その他 診断の結果、改修が必要とされた建物の改修工事を行う場合には、その改修費を補助する制度(上限60万円)があります。詳しくは建築課まで。